



北野の観音堂と 秘仏 十一面観音菩薩



星空を見上げる七夕も近づき、
伸びた朝顔や、やさしい風鈴の音が本格的な
夏の到来を教えてくれる頃となりました。
皆様、暑中いかがお過ごしですか？

さて、大智寺の墓地前の道をお寺とは反対に西へと進むと
山沿いに家々が立ち並びの中に観音堂があります。
お寺から少し離れており、行ったことがない方もいらっしゃるかもしれません。

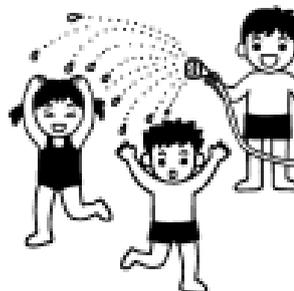
その昔、大智寺は複数の塔頭（たちゅう）寺院を抱えるお寺でした。
「塔頭寺院」とは、高僧が隠居した後に余生を過ごしたお寺のことで、
この観音堂は、「聞性庵（もんしょうあん）」という大智寺の塔頭寺院のひとつでした。



ここは昔から十一面観音菩薩をまつっており、江戸時代には、
美濃西国三十三観音霊場21番札所として多くの参拝者を迎えて
きました。また明治24年の濃尾震災に遭うまでは、お堂の
裏山に三十三観音の石仏をめぐる巡礼道が作られていました。
今、その三十三観音の石仏は大智寺の鐘楼南に並んでおり、大
智寺へ参拝される際、皆様にお参りいただいております。

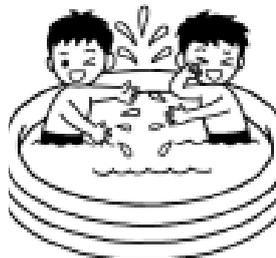
不運にも明治24年の濃尾震災ではお堂が前方に転がり全壊したものの、地域
の方々のおかげで古材を集め再建することができ、その後は大智寺十七代住職
曹宗和尚が隠居後にお住まいになりました。

昭和60年には天井画も復元され、地域の中で大切に守られてきましたが、
解放的にカギすることなく管理されていたため、とうとう秘仏十一面観音菩薩
の御前仏が盗まれてしまう事件に遭いました。幸い貴重な十一面観音様は無事
でしたので、それを機に大智寺へお引越いただきお守りすることとなりました。



この十一面観音様は平安時代後期の作といわれており
劣化を恐れて約50年ほど御開帳されることなくお堂
の中で大切に管理されておりましたが、平成20年に
再び大智寺が美濃西国三十三観音霊場25番札所に指
定されたことにより、4年に一度のみ御開帳し皆様
にお参りいただけるようになりました。

その昔この村の葬儀一行はお棺をかつぎ、村井勝美様宅の
裏にあった六地藏様から観音堂へななめに貫く「横大門」
と呼ばれた道を進み、「門前」である山際の道を墓地まで歩
きました。平成26年に御開帳を迎えるこの十一面観音様
は遠い昔から、私たちのご先祖様方が墓地へと進む一行を、
ずっと観音堂の中から見守ってこられた村の大切な観音様
でもあるのです。



大智寺だより

平成25年 文月
Vol.41

発行所
大智寺

岐阜市山県北野
668-1
電話:058-229-1532

《Mail》

hybsr245@ybb.ne.jp

《ホームページ》

大智寺

検索

<http://www.daichiji.com>

当紙は、大智寺本堂及び墓地
の水小屋にてご自由にお取り
いただけます。
又、当寺ホームページにて
過去すべての紙面をご覧いた
だけます。ご活用ください。

6月号発行部数
200部

ご愛読
ありがとうございます

昔はウナギも鮎も
いっぱいおったんやな

先日お寺へお参りに来られた方のお父様は、魚をとるのが好きで好きで、夏にもなると、毎日のように魚をとり川へ出かけたそうです。もう50年以上も昔の話です。

その頃、長良川は今と違って魚がいっぱい泳いでおり、中にはウナギもいたそうです。船を持っていたお父様は「明日うな丼を御馳走するで、友達を連れてこい」といい、捕まえて船底に泳がせていた大量のウナギを自分でさばいて焼き、もてなしたそうです。重箱にはご飯は入っておらず、ウナギがぎょう詰めになっており、お友達が喜んで全部食べたら、お腹痛いになってしまった、なんていう笑話も。

ここ北野から少し西へ行くと鳥羽川という川が流れており、そこにも出かけたそうです。子どもだったご本人は、米ぬかとお味噌を練り合わせたお団子を作り、そのお団子を川にむけて投げるとそこらじゅうの魚が「ワーツ」と寄ってくるので、その魚をお父様の網が待ち構える方へ追い込むのが楽しかったと。ウルリやら、天然の鮎が山程いたそうでした。後にお父様の喜寿のお祝いの席で、初めて養殖の鮎をひと口食べて、「岐阜でこんな鮎が出る時代になったんやな」と寂しそうに話したのが、切なく思い出されるそうです。かつての岐阜の豊かな暮らしを垣間見たひとときでした。



6月4日 岐阜西教区花園大会

ご参加くださった方々、ありがとうございました。

事務局の作成した案内にミスがあり、直前に再度案内配布のご協力をいただいた世話役の皆様にも改めて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



～ 美濃西国三十三観音霊場 4年に一度の総開帳 ～ 平成26年総開帳 4月6日(日)～4月20日(日)

霊場めぐり ひとくちメモ

人それぞれ、霊場巡りをはじめのきっかけは様々です。

「亡くなられたご家族の方のご供養のため」

「ご病気に苦しむご家族を、なんとか救っていただくため」

「ご高齢で家から出かけられないご家族に代わって、願いを届けるため」

「観音様をながめたり、お寺へ行くのが好きだから」



そんなそれぞれの願いを思い立ち、最初のお寺に巡拝した時のことを「発願(ほつがん)」、最後のお寺(三十三ヶ寺目)に巡拝した時を「結願(けちがん)」「満願(まんがん)」といいます。

霊場のご紹介

第一番札所：高野山真言宗 日龍峰寺(関市) ご開帳：千手千眼観世音菩薩
奥美濃屈指の古刹、舞台造りの本堂は京都清水寺にも似て「美濃清水」とも呼ばれています。

第二番札所：臨済宗妙心寺派 鹿苑寺(美濃市) ご開帳：聖観音菩薩
山家の趣きの禅寺、県指定重文である聖観音菩薩はもとより、寺宝韋駄天像もぜひご覧下さい。

第三番札所：浄土宗西山派 来昌寺(美濃市) ご開帳：聖観音菩薩
うだつの上がる町並みの中のお寺、眼病封じの観音様としても知られています。

お寺では、これから観音霊場巡りをなさる方に、奉納経(一冊500円)をご用意しております。この奉納経は、各お寺のご朱印をいただくための 美濃西国三十三観音専用のものとなります。

～ 観音様の教え 『延命十句観音経』 ～



第一句：観世音（かんぜおん）



子どもも唱えられる 一番短いお経から、
観音様の教えを簡単にご紹介。

このお経は文字どおり、十句42文字からなる短いお経です。
法要の際にも、必ずお唱えさせていただくので、
そらんじていらっしゃる方、聞き覚えのある方も多いのではないのでしょうか。

このお経に深く帰依し、世に広めたのは江戸時代の高僧白隠（はくいん）禅師でした。
生まれつき病弱であった白隠禅師は、自分が長寿を保ち得たのはこのお経の靈験であると信じ、
著書「八重葎（やえむぐら）」にもこのお経の靈験記を数多く記しています。

そんな延命十句観音経、最初の第一句は「観世音」の三文字です。
「観世音」 私たちが普段「観音様」と呼んでいる観世音菩薩様のことです。
ばらばらにしてみると「世の音を観（み）る方」

噛み砕いてみると「私たちの苦しみや悩みを、自分のこととしてとらえ、安らぎへと救って下さる方」
「観る」という字は、単に見ている状態ではなく、観音様最大の特徴「自他同化」を表しています。
「あなたの悩み苦しきは、すなわち私の悩みであり苦しみである」と、救いの手を差し伸べて下さる、
「そんな観音様は・・・」とお経は次回、第二句へと続きます。

今年のおひまわり

今年は今が梅雨といわれ、夏野菜も早くから成長
しているそうです。夏日も猛暑も6月から始まり、
これからの時期思いやられるような今日この頃、
皆様 暑中のお見舞いを申し上げます。

夏を告げるホタルが、光ったり消えたりしながら
お墓の山を昇っていく姿は、見慣れた光景ではある
ものの、やはり死者の魂のようなものがホタルの光
に重なって感じられ、つい手を合わせて見送るのが
夏手前のささやかな私の儀式(?)です。

その儀式が終わると、梅作業が待っています。
今年は大振りの実が多く、20キロ程漬けることが
できました。不器用で上手なものではありませんが、
それでも漬けると愛情が生まれ、一日に何度も様子
を見てしまつ癖はなかなか治らないまま、土用の丑
を待つこととなります(笑)

19世紀アメリカのホイットマンの詩に

「女あり 二人ゆへく

若きは 麗(うるわ)し

老いたるは なお美(うるわ)し」とあります。

なにげなく過ぎていく毎日ですが、

真心こめて丁寧に一日一日生きていく

そんな生き様を「丹精」といいます。

年若い女性は年月とともに丹精の美

が光り、過去の苦楽もあいまって、

若い女性にはない深みが生み出されて、なお美しい。

私は、夏の畑に出るおばあちゃん達を見ると、
いつもこの詩を思い出し、頭を下げます。



～ シリーズ 北野のおばあちゃんの味 ～

♪ 北野で丁寧に野菜を育てるおばあちゃんの味 おすそわけ ♪

里2号のおばあちゃん ころっとろに煮込んだ キャベツのスープ

- ① キャベツひと玉を二等分か四等分にざっくり切る。
- ② 鍋にキャベツがひたひたになるくらいのお水を入れて火にかけ、
コンソメスープと塩こしょうを適量に入れる。
- ③ よく煮込んで、キャベツがころっとろになったら 出来上がり。

キャベツの芯の部分は一緒に煮込んでもいいし、少し固そうなら切りなさっても
よろしいと思うよ。新玉ねぎも今ちょうど時期やで、一緒に煮込んでええね。





～ うちの宗教って、どんなんやっけ? ～

第七回：大燈国師の法灯を継いだ関山慧玄（無相大師）

大智寺の宗門を、やさしく簡単に
おわかりいただければ嬉しい、そんなお話



今回は、大智寺の住職及び副住職が修行させていただいた、
京都大徳寺の開山様 大燈国師のお話でした。

1333年には鎌倉幕府が滅亡し、後醍醐天皇による建武の新政が始まる、そんな時代のことです。
今回はついに我が大本山妙心寺の開山様 関山慧玄（かんざんえげん）のお話です。

関山慧玄は、信州高梨家に生まれ、出家には遅めの30才にして鎌倉建長寺で得度しました。
建長寺の大応国師が亡くなられた後も、師不在の中鎌倉に残り、師を探しなら修行に励んでおりました。

そんな折、「今天下で最も優れた禅僧は、大徳寺の大燈国師ただ一人だ」
との話を耳にし、1327年すぐさま関山慧玄は京都紫野の大徳寺を訪れます。

大徳寺の大燈国師は、関山慧玄より年下ではありましたが、
関山慧玄は謙虚に厳しい修行を積み重ね、ついに1329年「雲門の関字」の公案で大悟されました。

この時、はや53才を迎えていらっやいました。
この公案から「関」の字をとり、大燈国師より「関山号」を授けられました。
大燈国師直筆の「関山号」の軸は、今も国宝として妙心寺に所蔵されています。



さて、悟りを得た関山慧玄は大徳寺の師に分かれを告げ、
「悟後の修行」のため美濃の伊深にお隠れになります。
岐阜の地に妙心寺派寺院が多い由縁が、ここに伺われます。



♪ 月に一度はお寺まいり ♪

初心者 大歓迎
東日本大震災物故者追善供養
毎月 第四日曜日
定例写経会

今月の日程

7月28日（日） 一回 500円
（朝8時～9時） （内300円は義援金）
要申込

6月写経会 備忘録

あじさいの青や紫が境内を彩り、ぽたぽたと
姫沙羅の花が落ちる6月の日曜日、今回も
先月に引き続き観音経の写経に取り組みま
した。ちょっと長いお経ではありますが、一
文字一文字書き進めるにしたがって、心が
ゆったりと落ち着いてきます。写経の長さを
気にするのではなく、今の一字に集中する
ところに「空」の心があるのかもしれない。

永代供養墓って、どんなお墓？

「永代供養墓」とは、将来お墓を守りの方がいなくても、
永代にわたって、お寺が守って供養するお墓のこと。

大智寺の永代供養墓は、ご夫婦ご家族一緒に
ひとつのお墓にお眠りいただけるタイプです。
永代に亘り、他の方のお骨と混じらないことから
「完全個別永代供養墓」といいます。

ご希望の方は、いつでもご相談ください。



完全個別永代供養墓
1区画：38万円～
（墓石代金含む）

ご家庭のご事情により、
また、その方のご希望により
費用は変わります。

詳しくは、ご見学を含めて
ご説明いたしますので、ご予約
の上、ご来山ください。